

巨額の陸海軍備充實費を含む明年度豫算案決定に先立ち、政府は首相、外相、藏相及陸海軍大臣よりなる所謂五相會議を開催して、其前提たるべき非常時國策を樹立せんとしつゝある。元來かゝる國策は既に聯盟脫退と同時に之を確立し、且著々之が準備を整ふべきであつて、政府が今日迄之を閉却し、何等確固たる國策もなく、準備もなくして八ヶ月を空過したるは之を大なる怠慢と謂はざるを得ない。吾人は政府に對して先づ此怠慢を責めざるを得ないが、それよりも一層重大なる關心事は樹立さるべき國策の内容如何である。若し其内容にして適切ならざらんか、其れこそ國家を滅亡の淵に陥るゝの危険ある故、吾人は爰に之に對する明倫會の主張を明にして政府の猛省を促したいと思ふ。

## 海陸兩方面の脅威

抑も昭和十年の危機とは何であるか。云ふ迄もなく其第一は華府・倫敦兩條約の改訂期である、今日の情勢を以てすれば英米は、帝國に對し必ずや提携共謀して再び低率不可能の海軍力を要求すべきこと、餘りに明白であり、爲めに帝國々防の安固なる脅威を受くることである。第二、彼等は此機を利用して滿洲國の不承認、日本軍の滿洲撤退を強要すべきこと、之を先きに華府會議に於て山東還附を強要したる前例に徴して多分の實現性を有する。加之帝國の聯盟脫退は明後年三月に於て其効力を生ずるが、聯盟は米國の後援を待みて南洋委任統治領の返還を要求すべき虞れもある。若し帝國にして再び是等不條理の要求に屈服すべからずとせば、次に來るものは

戰爭の脅威の外何物でもないであらう。

爾て大陸方面を觀れば、露國は今や著々として軍備を充實し、其兵力歩兵七十五師團、騎兵十三師團、兵數百二十九萬人、飛行機三千二百、戰車千五百、並に多數の裝甲自動車及化學戰部隊を數へ、質に於ても、量に於ても帝政時代に比し更に優越なる大陸軍の建設に成功した。而かも滿洲國の獨立は彼我の國交に自然の緊張を來し極東露領の兵備は著しく増加して約十師團、戰車三百、飛行機數百を算するのみならず、國境には新式の永久築城を設備し、浦鹽には多數の潜水艦を備へて、何時にても滿洲を席捲し、我本土を爆撃し得べき戰備を完整してゐる。此戰備を目して單に守勢の爲めのみと推定するは甚しき獨斷であつて、國防上の不覺は常にかゝる樂觀的專斷より起ることを思はねばならぬ。況んや共產政權の基礎が益々鞏固となりたる際、殊に帝國が米、英等と開戦する場合には、當然此好機を逸せずして其強大なる武力を行使すべきこと、之を彼得大帝以來の傳統政策に徴して略々想察し得る所である。

支那は今や我威武に屈して隱忍を収めてゐるが、若し帝國にして米、露何れかと開戦する場合には、驟然起つて此好機を利用し、失地回復の舉に出づることも亦之を豫期せねばならぬ。

又經濟上より觀るとき、世界に於て殘されたる唯一最大の市場は支那大陸であつて、國內の生産過剩に苦しめる米英露の三國が此市場の獲得に垂涎措かざるも亦自然であり、此目的達成の途上に於ける只一の障壁が帝國である以上、彼等の攻撃目標が一意帝國に集中するは決して怪しむに足らぬ所である。